

横浜市パラスポーツ指導者協議会
会員 各位

以上

横浜市パラスポーツ指導者協議会

第 27 回 定時総会 議事録

日 時 2025 年 6 月 29 日（日） 10：00 ～ 12：00
場 所 横浜ラポール 2 階 大会議室
成立状況 会員総数 495 名（総会案内発送 5/29 時点）
出席会員数 39 名
委任状数 162 名
合計 201 名（会員総数の 1/3 である 165 を越え、総会成立）

<議 事>

定刻、事務局長_平山和幸が総会の開会を宣する。議事に先立ち今月初旬、逝去された車地厚子理事の訃報を伝え、哀悼の意を表し、一同で 1 分間の黙とうを行った。

本会の書記に志摩理事、議事録署名人に田川理事、伊藤理事の紹介が行われた後、会長_岩澤英喜より挨拶を行う。次に事務局長_平山和幸が本日の出席者数および委任状数の総数が会則第 14 条第 2 項の総会成立条件を満たしており、本総会が成立している旨を確認した。次いで、議長に会長が選出され、当会理事紹介の後、議案の審議に入った。

【第 1 号議案 2024 年度事業報告の件】

<議案説明者と内容>

- ・広報活動：広報担当理事_西村うづき

主な説明内容：機関誌 BASEL を 2 誌（第 53 号 2024. 7<A4 版 8 頁>、第 54 号 2025. 1<A4 版 8 頁>）を計画どおり発行した。

- ・研修活動：研修担当理事_後藤貴久

主な説明内容：当会主催の研修を次のとおり実施した。

前期（2024. 6. 30）：

講演会「日本一の車いすバスケットボールチーム 神奈川 VANGUARDS これまでとこれから」

講師 神奈川 VANGUARDS 球団代表 西村元樹 氏（参加 38 名）

後期（2024. 11. 10）：

講演会「待ってろ甲子園～特別支援学校が単独チームで甲子園に挑戦～」

講師 都立青鳥特別支援学校 ベースボール部監督 久保田浩司 氏（参加 29 名）

- ・支援活動：事務局長_平山和幸

主な説明内容：横浜ラポール所管競技系スポーツ行事とその他のイベントについて

①横浜ラポール所管行事・運動プログラムなど

ハマピックを中心に 12 のイベントに延べ 185 名の会員が、運営指導員として活動した。

②ラポール所管各種運動・スポーツプログラム

13 のプログラムに延べ 1,102 名の会員が、延べ 334 日、指導補助員として活動した。

③その他のイベント

ラポール以外の障害福祉関連団体の他、地域行政区、横浜市スポーツ協会、日本パラスポーツ協会、各種競技団体、学校系や企業から当会へのパラスポーツイベントの運営依頼が多く寄せ

られる現状と、パラスポーツ関連の各種会議出席などについて、44 のイベントに延べ 473 名の会員が、延べ 127 日、運営協力を行った。また、2024 年 4 月～2025 年 5 月に 10 回の当会役員会議を開催した。

＜第 1 号議案審議結果＞

承認（賛成多数）

＜主な質疑応答・意見＞

なし

【第 2 号議案 2024 年度決算報告・監査報告の件】

＜議案説明者と内容＞

- ・決算報告：会計_鳥羽美鹿

主な説明内容：一般会計と特別会計の収入・支出・残高について報告した。

- ・監査報告：監事_佐山篤

主な説明内容：帳簿ならびに計算書類の正確性を監査した結果、予算決算対比表、財産目録は収支状況および財産状態を正しく示していることを認めると報告した。

＜第 2 号議案審議結果＞

承認（賛成多数）

＜主な質疑応答・意見＞

Q：小泉氏：6 頁の支出の部「交通費」の計上目的は何か。

A：事務局長_平山和幸：主催側から交通実費支給のない首都圏以外の遠方会議に出席する場合など、計画せぬ会議交通費について役員会合議により支出するとしているが、当年度は、該当事案無しでした。

【第 3 号議案 2025 年度事業計画（案）の件】

＜議案説明者と内容＞

- ・広報活動：広報担当理事_西村うづき

主な説明内容：A4 版 8 頁として機関誌 BASEL を 1 誌（第 55 号 2026.1 月 600 部）を発行予定。

記事内容として第 27 回定時総会、前・後期研修会、全国障害者スポーツ大会等の報告、会員の活動・体験等コーナー、お知らせコーナーとスポーツイベント運営スタッフ募集、ユニフォーム頒布販売案内などを予定。

- ・研修活動：研修担当理事_後藤貴久

主な説明内容：

*前期、後期各 1 回を計画している。

*前期の研修は、本日、総会終了後に「デフリンピックの紹介と聴覚障害者のスポーツ参加について」と題して（一財）全日本ろうあ連盟 デフリンピック運営委員会 事務局長の倉野直紀氏の講演会を予定。

*後期の研修について、講師調整中（2025.12.7（日）予定）東京 2025 デフリンピック報告を検討中

- ・支援活動：事務局長_平山和幸

主な説明内容：

①横浜ラポール所管行事

4 月 6 日のハマピック「アーチェリー」から、4 月 29 日ハマピック「陸上」、関東ブロックバレーボールまで順調に開催されている。

②その他のイベント

今年度も各種団体からの依頼が多く、今期も皆様方に指導支援の要請がある模様。

随時発生するイベントについては、一斉配信メールを行う。

<審議結果>

承認（賛成多数）

<主な質疑応答・意見>

なし

【第4号議案 2025年度予算（案）の件】

<議案説明者と内容>

予算説明：会計_鳥羽美鹿

主な説明内容：収入と支出の計画内容について説明した。

また、事務局長_平山和幸から2025年度事業計画および予算（一般会計・特別会計）の定時総会承認前の執行および、2026年度予算成立までの経過措置について説明があり、併せて審議を諮った。

<審議結果>

承認（賛成多数）

<主な質疑応答・意見>

Q：藤郷氏：総会時点での会員数と予算案における会員数の差異と増減見通しについて説明を求める。

A：事務局長_平山和幸：会員数は、年2回の初級講習会により実勢増の傾向にある。ただ、年度更新を失念する会員により、見かけ上、低下するが、JPSAの督促にて回復する傾向を表している。2025年度予算編成においては、この事を考慮し2025年1月の会員数データをもとに上半期講習会修了者登録見込みの30名を加えた数値を計上しています。2024年度予算編成時の考え方も同様としており、確度の高い予測値となっている。

第4号議案承認後、事務局長_平山和幸より機関誌「BASEL」の発行回数を従来の2回から1回とすることについて下記のとおり説明がなされた。

事務局長_平山和幸：会員数増に伴う発行部数の増加と郵送料の値上影響による支出の増大傾向が確認される中、これまでどおり年2回発行とする場合、試算によると単年度赤字が懸念される実状にある。赤字回避を役員会で協議した結果、年間1回（1月）発行とし、年報ベースとした活動記事を盛り込み発送する、としました。広報低下の懸念については、運用推進している一斉配信メールによって一定程度の効果が維持されていると考えています。今後、広報活動については役員会で検討をします。

【第5号議案 役員改選の件（会則第10条）】

<議案説明者と内容>

役員改選：事務局長_平山和幸

主な説明内容：現職の役員任期満了に伴い役員の選出を行った。第26期役員のうち10名が再任、6名が退任意向、新たに4名の立候補があり、2025年3月29日開催の役員会で出席者の2/3以上の賛成により候補者14名が選任されました。さらに2025年4月26日開催の役員会で出席者の2/3以上の賛成により選出された会長（田川豪太）、副会長（後藤貴久）、監事（岩澤英喜）については、本総会にて承認を求めます。

また、現会長により委嘱された事務局長（平山和幸）、会計（長崎浩一・石原修二）、理事（西原隆一・伊藤俊之・臼井美江・柳井俊一・鳥羽美香・五十嵐美保・石黒芳樹）らが、紹介された。

<審議結果>

承認（賛成多数）

<主な質疑応答・意見>

なし

承認後、再任、新任、退任の各役員からそれぞれ挨拶を行った。

【第6号議案 バセル法人化の件】

<議案説明者と内容>

バセル法人化の件：事務局長_平山和幸

主な説明内容：設立27年目となるバセルを今年度NPO法人として法人格を取得し、持続可能なバセル事務局運営を執り行っていきたい。役員会では、2024年9月21日以降5回の審議を重ねてきました。皆様にとって法人化後も会員であること、活動の要件に変更は生じませんが、会員名称変更の可能性があります。登記上必要な社員登録は、設立賛同者の現役員を軸としますが、一般会員からの社員希望もお受けすることといたします。総会の形態は社員総会となり、議決権は社員のみが有することになりますが、一般会員からのご意見・ご希望・お問い合わせなどは、これまでどおりにバセルメールで受け付けていきます。

<審議結果>

承認（賛成多数）

<主な質疑応答・意見>

Q：藤郷氏：設立総会に際しての成立要件は、どのように考えているか。

A：事務局長_平山和幸：新たな約款作成を必要とするが、ご意思を持って法人設立主旨に賛同し、社員となられる方々の設立総会出席率は悪くないものと見込んでいます。今後の動きとして10～12月に設立総会を行います。そのための社員希望者を募っていきます。12月末には、登記を行いたいと考えています。

Q：横手氏：川崎市障害者スポーツ協会を例に話すと、財源確保が厳しく、助成金などに頼っている実態であるが、法人化に向けて財収目途はあるのか。

A：事務局長_平山和幸：本拠地においては、ラポールさんと協議を予定します。また、現時点で明確な助成金等の確保はありませんがNPO法人に登録後は積極的に働きかけを行っていきます。

Q：北川氏：横浜市としては、パラスポーツ協会を作る予定は無いのか。

A：事務局長_平山和幸：この3年間、行政サイドの動きをみて新たな組織を立ち上げる機運がないこと、横浜ラポール、ラポール上大岡双方の館長との連携理解が強い現状を好機と捉えて内生的に法人化へと動き出しました。

Q：小泉氏：一般財団法人かながわパラスポーツ協会では、各競技団体が、正会員、賛助会員となって事業費収入を賄っているが、それらに協力を求める予定はあるか。また、バセルの法人化もよいがパラスポーツ協会の立ち上げも考えてみてはどうか。

A：事務局長_平山和幸：現状の事務局運営を持続的に円滑に行うため、報酬を有する専従員をあてることが今法人化の最大の目的です。その財源確保については課題としてとらえているので、競技団体との連携なども検討していきたいと考えます。また、バセルが主体となってパラスポーツ協会の立ち上げを行うことは考えていません。

以上の議案をもって本日の議事が終了し、議長が解任され、司会は12時15分閉会を宣した。

〔その他〕

【横浜ラポール 上條館長からのご挨拶】

- ・ラポール行事に対する運営サポートにお礼を申し上げる。皆様の協力によってハマピック個人競技も終わり、全スポ選手選考会から練習会へと移行しています。
- ・バセルの支援活動報告を見てもその数は、2020 東京オリパラ以降、国の旗振りの成果でもあります。今後もさらに障害者スポーツを進めていくのは、日本全体の課題でもあります。
- ・横浜市にパラスポーツ協会が無いことは、承知もしているが、設立 34 年となるここ横浜ラポールが協会としてのその機能はかなり持っているという面があります。設立 27 年を迎えたバセルと両輪での活躍が今後も大切であり、障害者スポーツを進める、高める、そのための体制整備が、今回審議事項にもなっている「NPO 法人化」なのでしょう。設立総会が行われる頃には、また違ったお話ができるものと思っています。
- ・現場での障害ある人へのサポートは、これまでと同じく、今後はさらに進めていきたいと思っています。日本パラスポーツ協会、横浜市、バセル、リハビリテーション事業団、スポーツ協会、各競技団体と連携してスポーツ活動を盛り上げていきたいので今後ともよろしくお願いしたい。

【横浜ラポール 小島副館長よりお知らせ】

- ・ラポラポ 7 月号にハマピック個人競技終とバセルの紹介記事が、掲載されています。
- ・7 月 17 日（木）13 時からラポール運営委員会が開催されます。バセルからも担当者が参加します。
- ・9 月 28 日（10：00～15：00）に「ラポールの祭典」を計画しています。スローガンは『みんな笑顔につながる夢』、リハセンターもオープンデイとして参加するので訪れてみて下さい。専門職の方々が趣向を凝らします。
- ・デフリンピック開催に向けて「応援短冊 七夕飾り」をシアター前で行っています。是非ご参加をしてください。
- ・プールとラポールシアターの天井工事を実施中です（R6.10～R8.3.31）、併せてプールギャラリーとプール更衣室も閉鎖となっています。しばらくの間、不便をかけますが、よろしくお願いします。

以上

2025 年 6 月 29 日

議 長	岩澤 英喜
書 記	志摩 初枝
議事録文責	平山 和幸
議事録署名	<u>田川豪太</u>
	<u>伊藤俊之</u>